

2025年卒の就職戦線は、正式内定解禁日である10月1日を迎えた。キャリタス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は3年連続で9割を超えたことがわかった。過去最高を更新し、学生優位の売り手市場がより鮮明になった。

また、今回は内定後のフォローについての意見や、中小企業への応募状況、地元就職、就職活動費用など多岐にわたる調査結果を紹介したい。
(2025年卒・定期調査 最終回)

1. 10月1日現在の内定状況 (※)

- 内定率は93.1%。前回調査(7月調査、89.7%)から3カ月間の伸びは3.4ポイント
- 3年連続で9割を超え、10月の内定率としては過去最高をマーク
- 就職先決定者は全体の89.7%。内定保留者(1.6%)を合わせた活動終了者は91.3%

2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」57.1%。理系は半数近くが「大学院に進学」

3. 就職決定企業の属性

- 就職決定業界は前年に引き続き、文理とも「情報処理・ソフトウェア」が最多
- 「インターンシップ等参加企業(※)」が約5割に(49.9%)。前年より5.5ポイント増加

4. 内定後のフォローと内定者研修

- 企業に望むフォローの頻度は「1カ月に1回程度」が最多。文理による大きな差はない
- 内定期間中の研修や課題には6割近くが賛成の意向。「eラーニング」が人気

5. 中小企業への選考応募状況

- 中小企業の面接試験を受けた学生は全体の49.9%。平均社数は2.5社。ともに前年より減少
- 中小企業を受けた理由は「やりたい仕事に就ける」43.0%、「会社の雰囲気がよい」38.0%

6. 地元就職の状況

- 就職先が決まった地元外進学者のうち、Uターン就職は2割弱

7. 就職活動の費用

- 平均76,888円で、3年ぶりに減少。前年を7千円余り下回った
- 総額が最も高いのは「九州・沖縄」(109,664円)、最も低いのは「関東」(64,596円)

※「内定」には、内々定を含む

※「インターンシップ」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

調査対象：2025年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
回答者数：1,131人（文系男子308人、文系女子395人、理系男子277人、理系女子151人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2024年10月2日～9日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2025
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

1. 10月1日現在の内定状況

10月1日現在の学生モニターの内定率は93.1%。前回調査(7月1日時点)の89.7%から3.4ポイント伸び、9割に達した。10月の内定率が9割を超えるのは3年連続で、現在の形式で調査を取り始めた2005年卒以降で、最も高い数字となった。企業の採用意欲の高さを改めて印象づける結果と言える。

内定率を属性別に確認すると、文理男女のいずれも9割に達しているが、理系男子は他の属性に比べやや低い(90.6%)。例年の傾向ではあるが、進学へと進路変更を図る学生が比較的多いことが影響していると見られる。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了した人の割合は96.4%を占める。7月調査(81.6%)から約15ポイント増え、正式内定日までに内定取得学生のほとんどが活動を終えた。

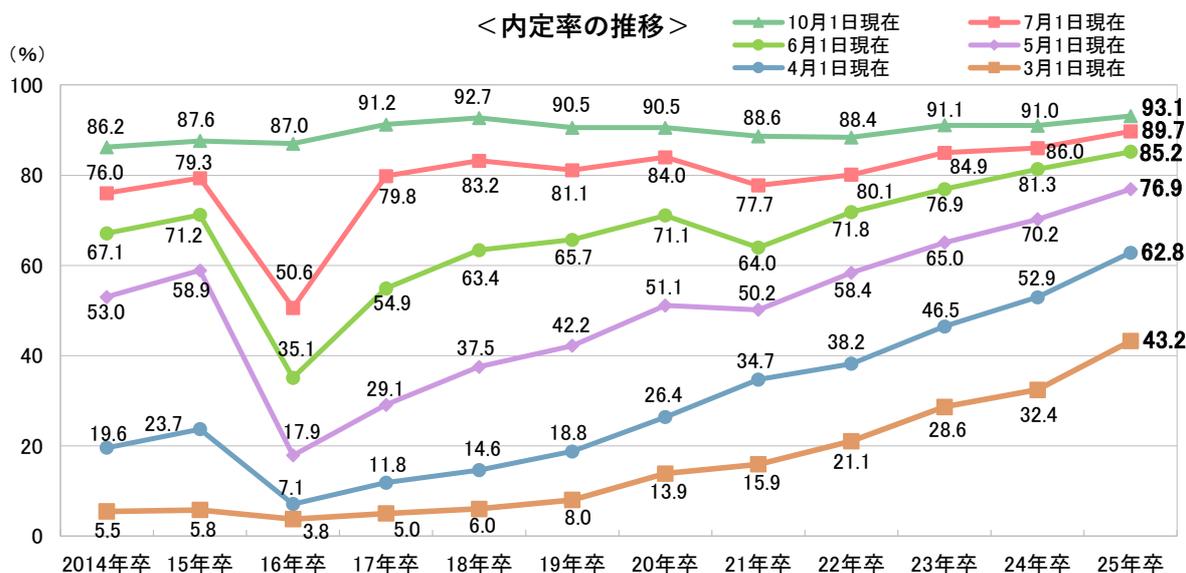
内定取得学生の平均内定数は2.6社。前年(2.5社)よりさらに重複内定が増加した。

<10月1日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		93.1 (91.0)	92.9 (90.4)	93.7 (94.6)	90.6 (87.5)	96.7 (90.5)
内定なし		6.9 (9.0)	7.1 (9.6)	6.3 (5.4)	9.4 (12.5)	3.3 (9.5)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	96.4 (94.9)	93.7 (94.3)	97.8 (93.8)	96.0 (97.0)	98.6 (94.8)
	活動は終了したが複数内定保持	0.9 (1.4)	1.0 (1.8)	0.8 (1.5)	1.2 (0.7)	0.7 (1.5)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.8 (1.2)	0.7 (0.9)	0.3 (1.2)	1.6 (0.4)	0.7 (3.7)
	就職活動継続	1.9 (2.5)	4.5 (3.0)	1.1 (3.6)	1.2 (1.9)	0.0 (0.0)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.6 (2.5)	2.7 (2.5)	2.7 (2.7)	2.3 (2.4)	2.5 (2.4)

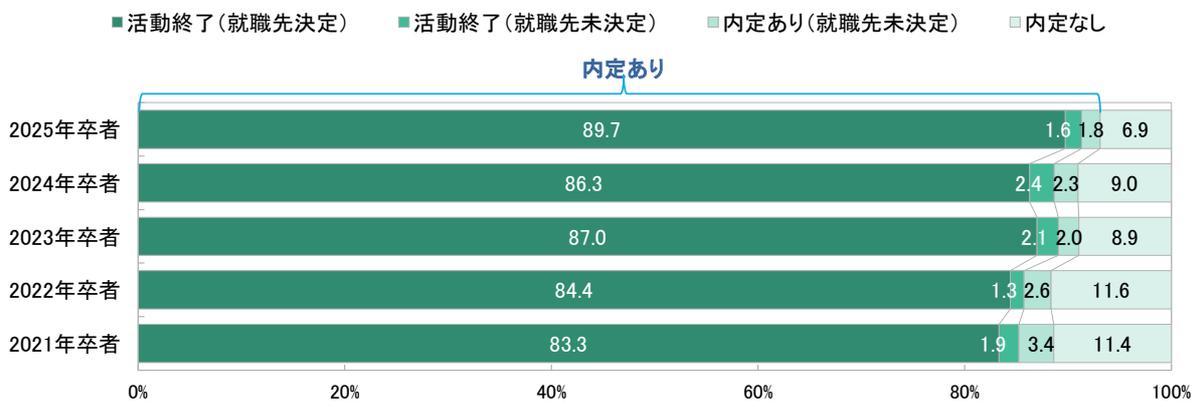
※()内は前年(10月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~25卒は6月

回答者全体を分母にして活動状況を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 89.7%。内定率の上昇に加え、内定取得学生の決定割合も高まったことで、前年同期 (86.3%) より増えた (3.4 ポイント増)。複数内定を保留しているなど就職先未決定である者 (1.6%) を合わせると、活動終了者は 91.3%となる。

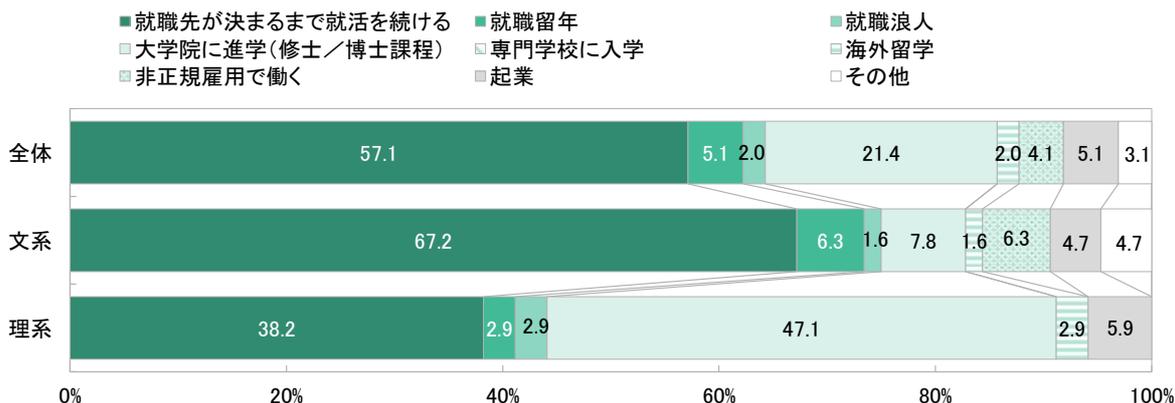
<活動状況の分布>



2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

10月1日時点で就職先が決まっていない学生 (モニター全体の8.7%) に、今後の予定を尋ねた。「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が半数を超えるが (57.1%)、就職以外の進路を考えている者も少なくない。「大学院に進学」が全体の2割を超え (21.4%)、より専門的な学問を修得してから就職したいと考える層も一定数みられる。とりわけ理系学生において顕著で、半数近くが選択している (47.1%)。一方、文系学生は「就職先が決まるまで就職活動を続ける」が圧倒的に多く、7割近くを占める (67.2%)。

<就職先が決まっていない学生の今後の予定>



■就職先が決まっていない学生の声

- 現時点で内定承諾を出している企業もあるけれど、もっと自分とマッチする企業があるかもしれないので、もう少し活動する。 <就活継続：文系男子>
- 人生がかかっているの納得するまで続けたい。 <就活継続：文系女子>
- 学部だけでは思ったより専門的なことを学べなかったと感じており、より専門性を身につけたいと思った。 <大学院進学：理系男子>
- 就活をやり直したい。進路を考える時間がほしい。 <就職留年：文系女子>

3. 就職決定企業の属性

就職先を決定して就職活動を終了した学生(モニター全体の89.7%)の、就職決定企業について確認したい。

まず、就職決定企業の業界を文理別に見てみる。文系は、1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「銀行」、3位「官公庁・団体」で、上位3位は前年からの変動はない。ただし、「情報処理・ソフトウェア」「銀行」は、前年よりポイントが伸びて、集中度が高まった。理系も1位は「情報処理・ソフトウェア」で、文理にかかわらず採用に積極的な企業が多いことがわかる。2位「建設・住宅・不動産」から5位「素材・化学」までは、順位の変動はあるものの、顔並びに変化は見られない。

<文系>

2024年卒者			2025年卒者		
		%			%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.5	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.1
2位	銀行	7.0	2位	銀行	7.8
3位	官公庁・団体	6.7	3位	官公庁・団体	6.5
4位	建設・住宅・不動産	6.2	4位	調査・コンサルタント	5.4
5位	運輸・倉庫	5.7	5位	運輸・倉庫	4.9
6位	調査・コンサルタント	4.5	6位	その他サービス	4.6
	商社(専門)		7位	建設・住宅・不動産	4.4
8位	その他サービス	4.1	8位	商社(専門)	4.1
	情報・インターネットサービス		9位	保険	4.1
10位	マスコミ	4.0	10位	電子・電機	3.3
				マスコミ	

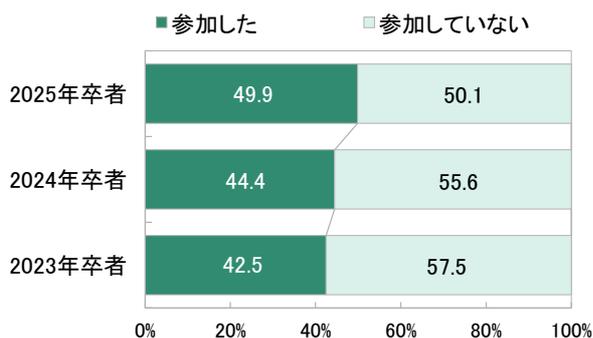
<理系>

2024年卒者			2025年卒者		
		%			%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.5	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.1
2位	電子・電機	10.9	2位	建設・住宅・不動産	11.9
3位	建設・住宅・不動産	9.6	3位	自動車・輸送用機器	9.1
4位	自動車・輸送用機器	7.5	4位	電子・電機	8.3
5位	素材・化学	7.0	5位	素材・化学	6.8
6位	機械・プラントエンジニアリング	5.4	6位	医薬品・医療関連・化粧品	5.5
7位	水産・食品	5.2	7位	機械・プラントエンジニアリング	4.9
8位	調査・コンサルタント	4.4	8位	水産・食品	4.2
	医薬品・医療関連・化粧品		9位	調査・コンサルタント	3.9
10位	官公庁・団体	3.9	10位	官公庁・団体	

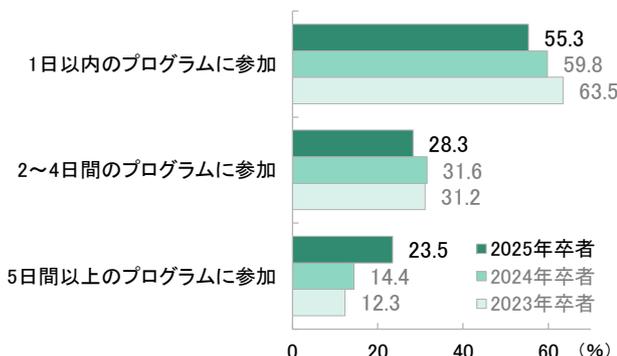
※40業界のうち上位10業界を掲載
 ※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

次に、インターンシップ等のプログラム参加状況を見てみる。就職決定企業がインターンシップ等に参加した企業だったという人が、前年よりさらに増加し、約半数に上る(49.9%)。なお、「5日間以上のプログラムに参加」したという人は、前年調査では1割あまりだったが(14.4%)、23.5%と大きく増加。長期プログラムへの参加を通して就職先として意識し、実際に内定を得て卒業後の進路として決定するケースが増加した様子が見取れる。

<就職決定企業のインターンシップ等への参加>



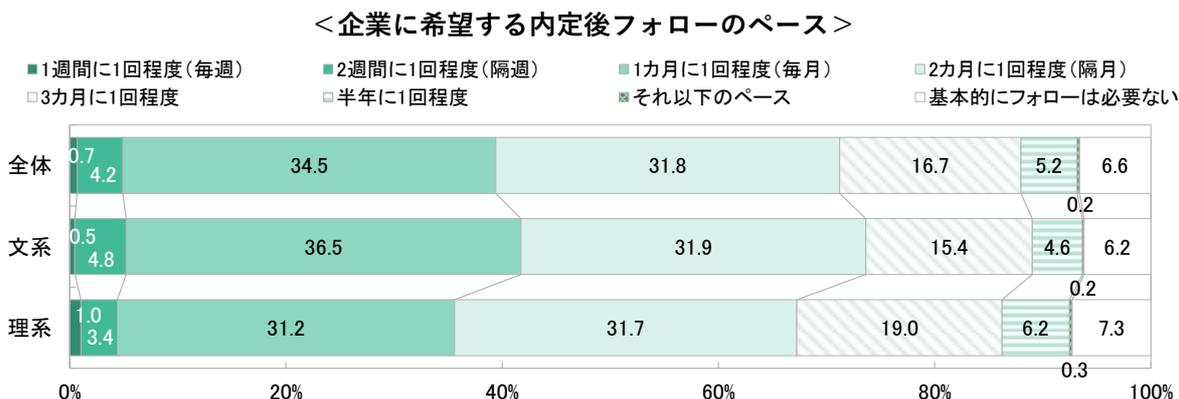
<日数別参加状況>



※就職決定企業のインターンシップ等参加者が回答

4. 内定後のフォローと内定者研修

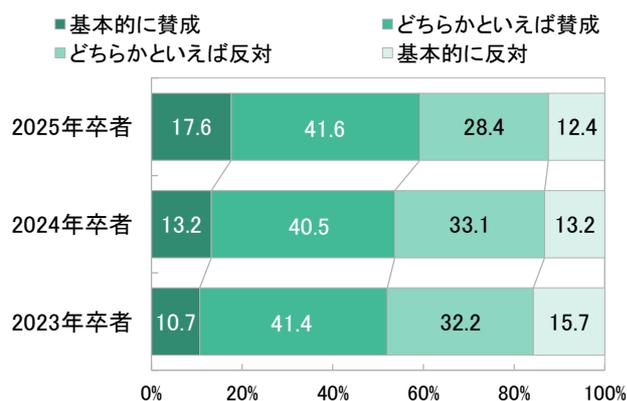
就職先を決定して就職活動を終了した学生に、入社までどのくらいのペースで企業にフォローしてもらいたいと思っているのかを尋ねた。最も多かったのは「1カ月に1回程度(毎月)」で34.5%。次いで「2カ月に1回程度(隔月)」(31.8%)が続く。卒業研究など専門分野の学業で多忙な理系学生は、文系と比較すると少ない頻度を望む傾向が見られるものの、文理ともに一定のフォローを期待している様子が見えてくる。



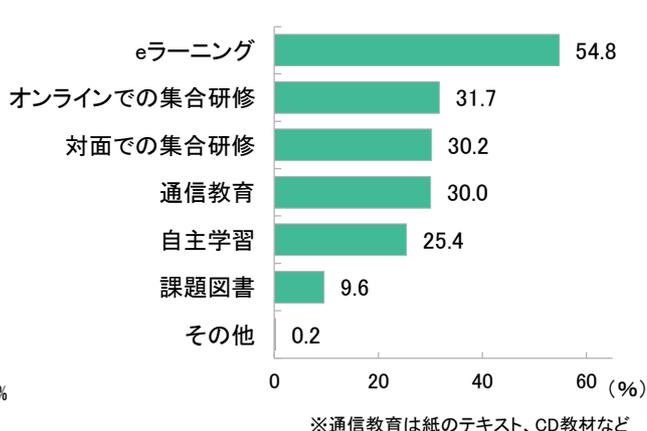
内定期間中に研修や課題が出ることへの賛否を尋ねると、「基本的に賛成」(17.6%)と「どちらかといえば賛成」(41.6%)を合わせて6割弱が賛成と回答(計59.2%)。過去2年に比べ増加し、内定期間中の研修・課題に肯定的な学生が増えた。

研修や課題の望ましい形式は「eラーニング」(54.8%)が人気で、自宅等で自分の都合に合わせて受けられる課題や研修を希望する学生が多いようだ。2位以下はポイントが分散している。どのような形式であっても、入社前の研修は希望者のみに限り、学業に負担のない量・方法で行うことが求められる。

<内定期間中に研修や課題が出ることへの考え>



<内定者研修や課題で望ましい形式>



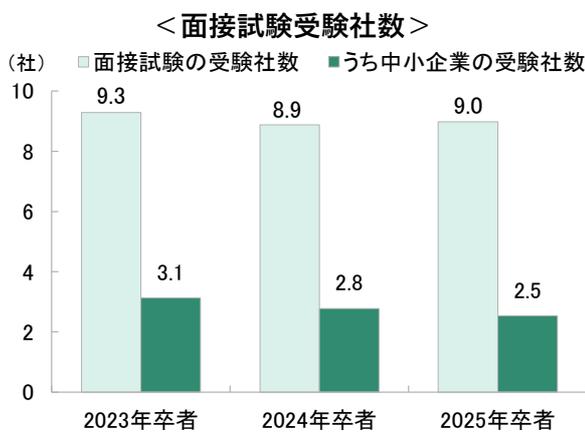
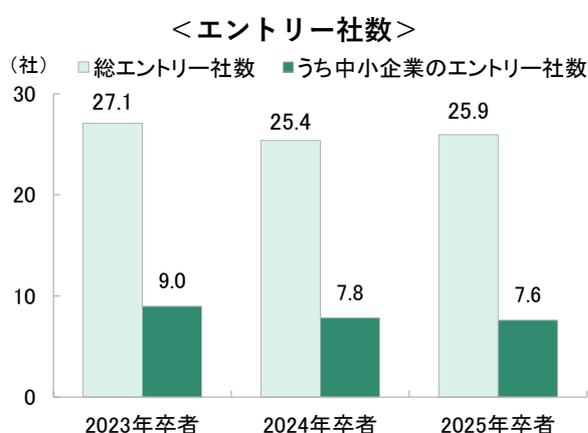
■就職決定企業について、入社するまでにもっと知りたい情報

- 希望部署に行くためにはどのような努力が必要か、入社までにどのような自己研鑽をするべきかについての情報を知りたいと思った。 <文系男子>
- 年収がどのように上昇していくのか、モデルを示して欲しいと感じた。 <文系女子>
- 就業規則の細かな部分を知りたい。副業の可否や、結婚・転勤時のサポートやそれに伴う手当等。 <理系男子>
- 入社後の寮や、引っ越しなどの流れについて詳しく聞きたい。 <文系女子>
- 部署の希望を出すことができるが、それぞれについて深く知らないなので、教えて欲しい。 <理系女子>

5. 中小企業への選考応募状況

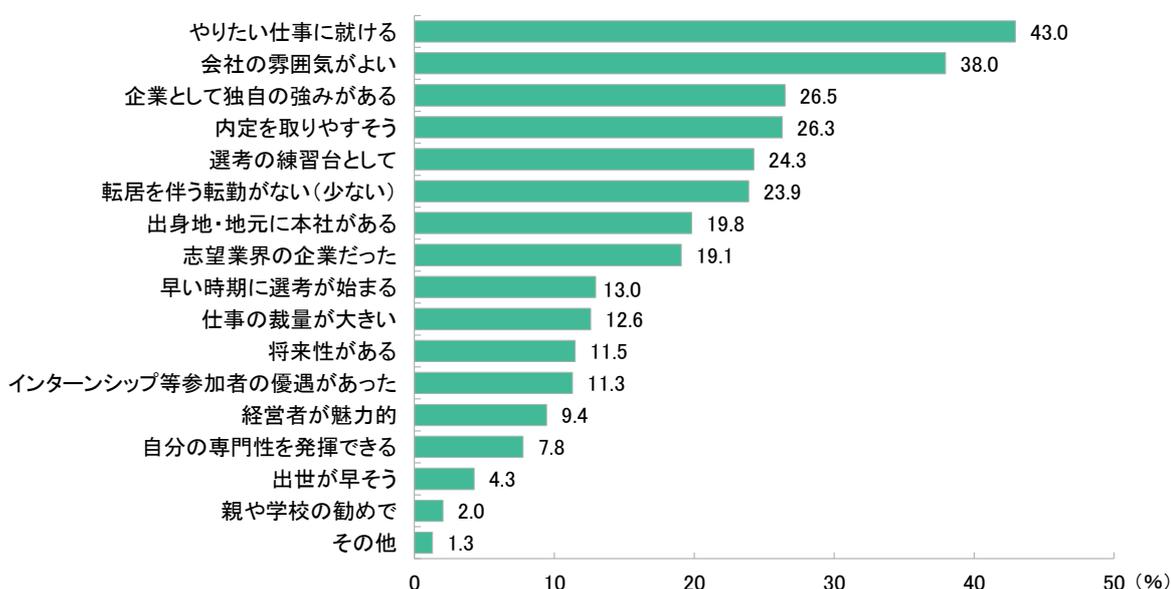
全員を対象に、従業員 300 人未満の中小企業への応募経験について尋ねたところ、「中小企業にエントリーした」学生は 55.1%で、前年 (60.1%) より 5 ポイント減少。「中小企業の面接試験を受けた」割合も減少し、半数を割り込んだ (49.9%)。総エントリー社数の平均 25.9 社のうち、中小企業へのエントリー社数は 7.6 社。うち面接試験受験社数は平均 2.5 社。エントリー社数に占める中小企業の割合、面接試験受験社数に占める中小企業の割合ともに、今年は 3 割を下回った (それぞれ 29.3%、28.3%)。売り手市場を背景に、中小離れが進んだ様子が見て取れる。

	(%)				(%)		
	2023年卒者	2024年卒者	2025年卒者		2023年卒者	2024年卒者	2025年卒者
中小企業にエントリーした	61.6	60.1	55.1	中小企業の面接試験を受けた	57.7	55.5	49.9



中小企業を受けた学生にその理由を尋ねると、最も多いのは「やりたい仕事に就ける」(43.0%)で、仕事内容が希望と合致すれば、企業規模を問わないという学生も少なくないことがわかる。ここに「会社の雰囲気がよい」(38.0%)が続くが、実際に説明会や選考での対応を通じて社風のよさも感じたという声も多数寄せられた。「転居を伴う転勤がない(少ない)」「出身地・地元には本社がある」なども 2 割前後が選び、大手に比べて転勤が少なく、働きやすいと感じている学生もみられる。

<中小企業を受けた理由>

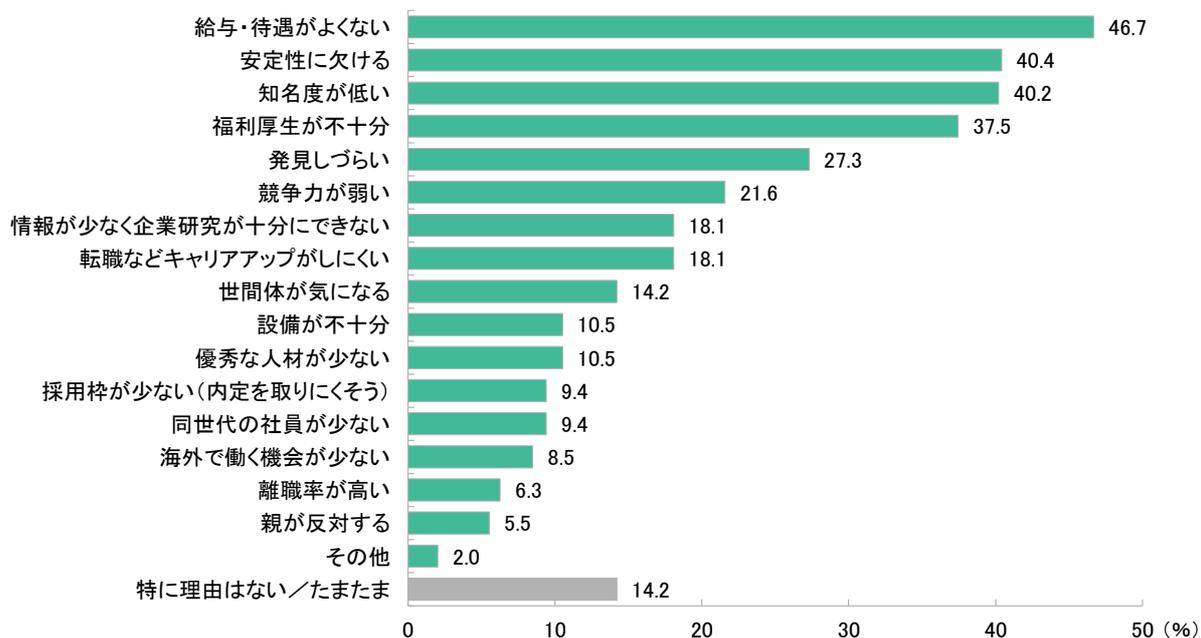


中小企業を受けていない学生 (モニター全体の50.1%) にも、その理由を尋ねた。最も多いのは「給与・待遇がよくない」で4割強が選んだ (46.7%)。ほかに「安定性に欠ける」(40.4%)、「福利厚生が不十分」(37.5%) なども上位に挙がり、条件面に対する懸念が中心であることがわかる。

また、「知名度が低い」(40.2%)、「発見しづらい」(27.3%) なども一定数が選んでおり、うまく探せないという学生も少なくない。また、「情報量が少なく企業研究が十分にできない」は2割弱が選んだ (18.1%)。

中小企業を受けた学生から寄せられたコメントを見ても、選考時の対応は大手企業より好印象だという声が多いものの、それ以前に「知るきっかけが限られる」「情報が少ない」という声も目立った。

< 中小企業を受けていない理由 >



■ 中小企業を受けていない理由

- 隠れ優良企業があるとは思うが、見つけにくい。 < 理系男子 >
- 事業環境の変化が大きく、定年まで安定した給与を得ることが難しそうな気がするから。 < 文系男子 >
- 関わる案件などの規模感や社会に与えられる影響力を考えたときに大手企業の方がいいと感じて就職活動をしていたが、もっと視野を広げて見ても良かったと感じている。 < 文系女子 >
- 1社目は大きな企業で経験を積んでいきたいという思いがあったから。 < 文系男子 >
- 大企業に内々定を貰えなかったら考えたが、うまく就活が進んだため受ける必要がなかった。 < 理系女子 >

■ 中小企業を受けた印象

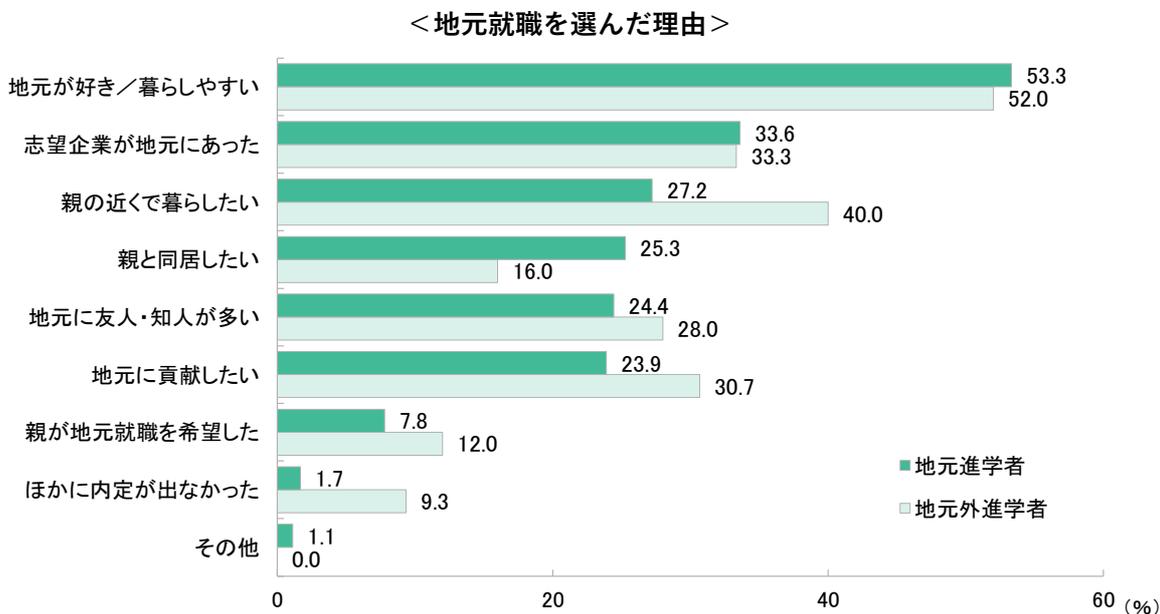
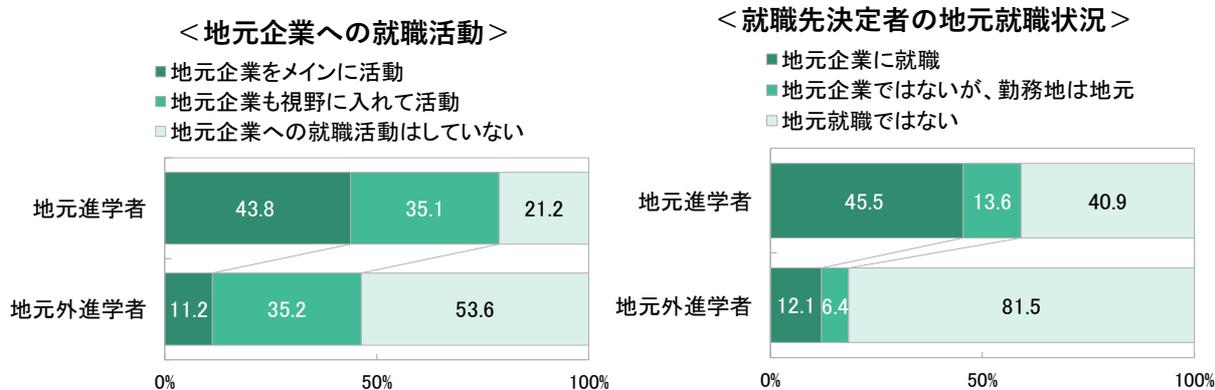
- 一人一人真摯に向き合っている感じがあってよかった。 < 文系女子 >
- 学生に対して、より丁寧に対応して下さったところが好印象でした。 < 理系男子 >
- 学生との距離が近く、説明会から選考に至るまで終始フレンドリーな雰囲気で行った企業が多かった印象。 < 文系男子 >
- 1次面接から面接官が中堅社員だけで、深掘りが厳しい企業があった。応募者が多くないからこそ、早い段階からしっかり選別したいという意識を感じた。 < 理系女子 >
- スピーディーな選考が印象的。人事の人を含め多くの接点をもてるため、入社後のイメージがつきやすいと思った。 < 文系男子 >
- 大企業に比べ、自分から情報収集する必要がある。 < 理系男子 >
- 選考についての情報がほとんどなく対策が難しかった。 < 文系女子 >

6. 地元就職の状況

出身地・地元での就職活動について尋ね、地元の大学に通う学生（＝地元進学者）と、地元を離れて進学している学生（＝地元外進学者）とに分けて集計した。

地元進学者の4割超が「地元企業をメインに活動」と回答したのに対し（43.8%）、地元外進学者では1割程度（11.2%）。ただ「地元企業も視野に入れて活動」（35.2%）を合わせると、地元外進学者の4割強がUターン就職を意識した計算になる。就職先が決まった地元外進学者のうち、Uターン就職は2割弱（地元企業12.1%、勤務地が地元6.4%の計18.5%）。オンライン就活の浸透でUターン就活のハードルは下がったものの、情報収集や時間、費用面などで簡単にはいかないようだ。

なお、地元就職を選んだ理由は、地元進学者・地元外進学者とも「地元が好き／暮らしやすい」が最も多く、進学先に関わらず地元への愛着が地元就職を選ぶ一番の動機となっている様子が見て取れる。

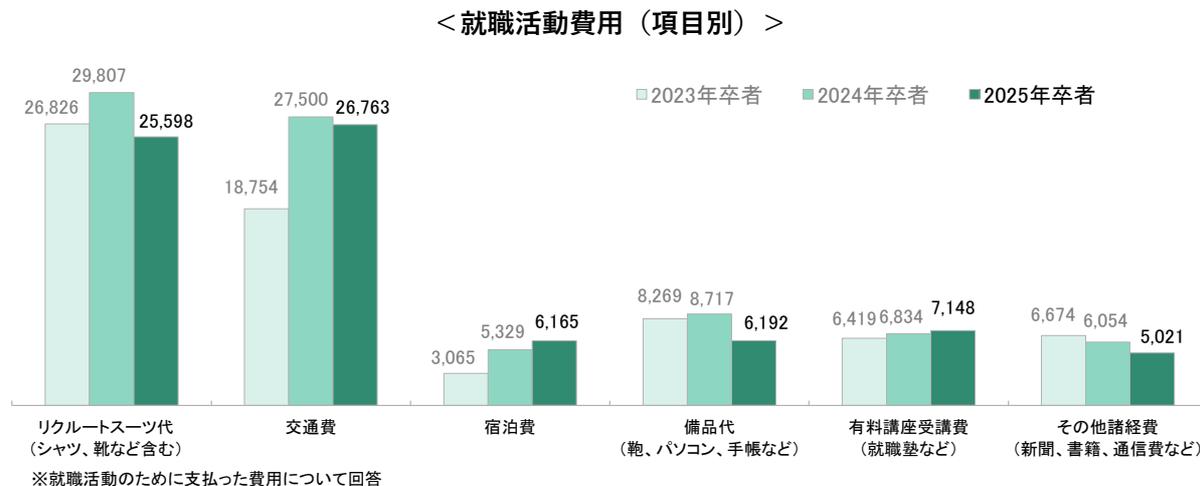


■ 地元就活で苦労した点、必要だと思う支援など

- 地元となると企業数が限られてくるため、様々な媒体から情報収集をする必要があった。 < 理系男子 >
- 交通費などの支援。地元へ帰ることが負担な一方で、きちんと現場を見ておきたいので、そのような支援があると良いと思います。 < 文系女子 >
- 対面だと参加が難しいので、できるだけオンラインで完結する選考やインターンがいい。 < 理系男子 >
- 本社が地元であり、かつ全国転動がない会社はとても狭き門で、競争率が高かった。 < 文系女子 >
- なかなか見つけにくいいため、地元企業のみを焦点を当てた説明会を多く開催してほしい。 < 文系男子 >

7. 就職活動の費用

就職活動でかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の項目ごとに金額を尋ねた。各項目の平均額を足し上げると76,888円となり、前年調査(84,241円)より7千円あまり減少した(7,353円減)。就活費用はコロナ禍を機に大幅に減少した後、昨年増加に転じていたが、今年は再び減少した。



<就職活動費用(大学地域別)>

(円)

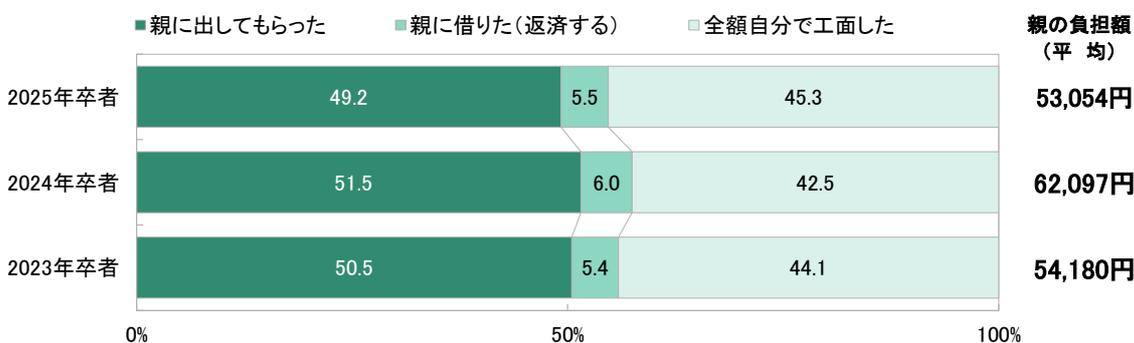
	北海道	東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄
合計	85,950	88,091	64,596	78,810	88,657	82,311	109,664
リクルートスーツ代	25,100	16,561	25,830	28,621	26,208	23,423	23,052
交通費	29,033	37,081	16,623	28,784	37,454	31,113	50,129
宿泊費	13,200	11,193	1,689	6,845	9,988	9,245	16,224
備品代	5,700	4,421	5,583	5,653	8,474	7,521	4,414
有料講座受講費	8,367	14,561	9,607	4,121	1,745	5,660	10,603
その他諸経費	4,550	4,274	5,263	4,786	4,789	5,349	5,241

項目別に見ると (表は 8 ページに掲載)、最も減少したのは「リクルートスーツ代」で、「備品代」が続く。入学式のスーツを利用するなど、就職活動では費用をかけなかった人もいたようだ。また、「交通費」も微減した。最終面接を除けば、オンライン中心の傾向が続いていることに加え、企業からの交通費補助を受けるケースも少なくないようだ。

地域別では、合計額が最も高いのは「九州・沖縄」で 109,664 円。7 エリアの中で唯一、10 万円を超える。とりわけ交通費が高いのが目立つ。

なお、総額の減少に伴い、就活費用をアルバイトなどで「全額自分で工面した」という学生の割合は増加。代わりに、「親に出してもらった」が減少し、半数を切った (49.2%)。親の負担額は平均 53,054 円で、前年より約 9 千円減少した。

<就職活動費用の出どころ>



■就職活動の費用について

- スーツ類は入学式で買ったものをそのまま利用した。ウェブテストの対策をするために書籍が必要であったため、それに出費した。 <関東・文系男子/総額 15,000 円>
- リクルートスーツに関してはレンタルできたのがよかった。 <関東・文系女子/総額 40,000 円>
- 第一印象は大事だと思うので、美容院やスーツ、メイク等にはお金をかけた。一方で書籍等は図書館を利用したり先輩からもらったりした。 <中部・文系女子/総額 100,000 円>
- 私は対面の面接を一度も受けることがなかったので、かなり安く抑えられたと思う。 <関西・文系女子/総額 13,000 円>
- 九州に住んでいるため、交通費を出してくれるかどうかでインターンシップや説明会の参加の有無を判断することが多かった。交通費を出してくれると受けようと思う。 <九州沖縄・文系女子/総額 209,000 円>
- 面接の日程は大体直前に決まるので飛行機を利用する際にはお金がかかる。交通費固定の企業は、そこを考慮して費用設定してほしい。 <北海道・理系女子/総額 151,000 円>
- 宿泊費や交通費は企業が負担してくれることが多かったため助かった。 <関西・理系男子/総額 40,000 円>
- 交通費・宿泊費負担という企業も多いが、案外人気のある企業のインターンシップなどでは個人が負担する形も多かった。 <東北・文系女子/総額 85,000 円>
- 本は大学の就職課が数年前の本を無料配布しているものを使用した。また、オンライン面接に備え、ライトとヘッドセットマイクを購入した。 <関東・理系女子/総額 64,500 円>
- 面接に遅れないように早めの到着を心掛けていたため、面接前に入るカフェ代が高かった。 <関東・文系女子/総額 65,000 円>
- 資格試験などで箔をつけようとした際に、講座や本代にお金がかかった。大学1年からコツコツやるべきであった。 <関東・文系男子/総額 130,000 円>
- 公務員用の講座で使った。 <中国四国・文系男子/総額 485,000 円>